

【あなたは今満足していますか。】

聖書箇所：ヨハネの福音書4章3節—15節/暗唱聖句：ヨハネの福音書4章14節

説教：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

先週我々はスカルという町のあるサマリヤ女にまで尋ねて来られたイエスキリストについて教えられました。今日の御言葉の本文に出ているサマリヤの人々も実はユダヤ人でしたが、以前アシリアに北イスラエルが征服された時、征服した国々が革命を起こさないように民族分散政策を立て、北イスラエルの首都だったサマリヤにはバビロン、クダ、ヤフ、ハマツ、スバルワイムの多くの人々を強制的に移住させ、違う民族同士の婚姻関係を結ばせました。そのため、サマリヤ地域の人々は異邦人たちと結婚し、血統と信仰の純粋さを失ったため、他のイスラエルの地域のガリラヤ、ユダヤの人々はサマリヤ人たちの存在を恥づかしい存在として思っただけではなく、まるで犬みたいに人間のようにも接したくなかったほどさげすまれた人々でした。なお、今日の本文のサマリヤのスカルの町でのこの女は夫を5回も変えて、6回目の男性と住んでいたため、周りのサマリヤの人々からも冷たい視線で、仲間はずれにされ孤独に生きていました。

しかし、イエス様はそのサマリヤ女を救うためにわざと彼女のところに訪ねて来られ、井戸のところで待っていておられたのです。サマリヤの女が水をくみに来た時、イエス様はその女に“水を飲ませてください。”と話をかけて下さいました。明確なのは、イエス様が実際喉が渇いたから水を飲ませるように求めたわけではありません。

なぜなら、すでに弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた(8節)のもうちょっと待てれば、水と食物をもっと来る予定だし、それともイエス様が直接奇跡を起こし御自分で飲むこともできたのではないのでしょうか。

イエス様が水を飲ませてくださいというそのお話には意味深い内容が含まれています。

ところが、今日の10節には、“イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」”といわれた時、サマリヤの女は“先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのです。”と応えます。これは今サマリヤの女がイエス様がどんなお方なのか、イエス様が今語って下さったお言葉の意味も全く理解してなかった意味です。ここで我々が覚えるべきなのは、サマリヤの女がイエス様がだれなのか、イエス様が語って下さった意味も全く理解できなかったように、まだ私が聖書の御言葉で説教していますが、まだ理解しがたい方もいらっしゃるかも知れません。しかし、本文のサマリヤの女もはじめはイエス様も知らず、イエス様が語って下さった意味もしばらくは理解できませんでしたが、まもなくすべてが悟られ、驚くほど人生も素晴らしく変わったように、みなさんの中でもしばらく牧師が何を話しているか意味が分からなくても、何回繰り返して教会に通ううちにならず、御言葉の真理を悟り、この世が知らず、与えることもできなかった素晴らしい神の祝福を経験することになると信じます。

1. 苦しみの中の女に尋ねて来られたイエスキリスト

今日イエス様が訪ねて来られた対象であるスカルという町に住んでいた女はどんな人でしたか。

今日聖書の本文に登場している女はだれにも言えない人生の苦しみを抱いたまま必死に生きようとしていた女のように見えます。5回も結婚生活に失敗し、今は6回目の主人と結婚の生活をしている女の人でした。町の人々は彼女を慰めたり、励ますことはさておいて、町に彼女が見えたら、後ろでひそひそと話したり、悪口を言いふらしながら、冷たい視線で見ているようです。彼女には友達も、見方になってくれる人も、話かけてくれる人も見えない孤独な人生を過ごしていたひとのように見えます。

自分自身に対する劣等感と自身もなかったのみならず、人々に対する被害意識などで、人目につかないように生きて来た人生だと十分に思われます。ですから、この女がいかに寂しい生活をしたのかは検討がつかないのではないのでしょうか。

ですから、当然この女もいつの間にかに他の人と会うのがいやで、怖かったかも知れません。

そういうわけで、人があまり通ってない暑い正午の日盛り(ひざかり)の時、井戸に水をくみに来たのです。

今日名前も知らないスカルのサマリヤの女はわざと暑くてあまり人々が来ないときに水をくみに着きました。

イエス様はそこにおられました。彼女にとって今日イエス様との出会いはたまたま偶然のようでしたが、イエス様は彼女のすべてを知っておられ、計画をもって意図的に彼女を救うために彼女が井戸に来る時間、そこで待っていておられたわけです。

愛するみなさん！ 同じようにイエス様は今みなさんのすべて(過去、罪、弱さ、足りなさ今までの人生のすべて)のことも知っておられます。他の人には隠そうとすることも我らの主イエスキリストはすべてを知っておられます。みなさんが今日主の教会に来ることさえ御存知でみなさんが来る前に待っていておられたお方であることを信じますか。ですから、今日も主の御前で何一つ隠す必要がありません。いや隠すことができません。ですから、何の仮面(かめん)をかぶらせず、ありのままの姿をもって主の教会に入ってください。

事実、この女は井戸の水がなくてかわいたのではなく、魂の満足がなかったため渇いた女でした。

彼女は結婚を通して幸せを取り、人生の真の満足を得たかったのですが、やはり失敗でした。

この女は自分なりに人生の幸福を探すために、取るために背一杯頑張ったと考えられます。だから、回りの視線も気にせず、人生を諦めず6回目の結婚までやったのではないのでしょうか。

彼女は特別な幸福を求めたわけではありません。他の人々のように平凡な家庭を作り、愛し合いながら生きることでした。幸せになりたくて、人生の飢え乾きから真の満足を得るために、今までだれにも言えない苦しみ、辱めや失敗などからの傷を持っていたのみもかわらず、諦めずにもう一度結婚の方法をトライした訳です。

最初は男の顔がハンサムな人で、外見が素敵で自分が願っていた理想形のタイプの男性のような基準を持っていたかも知れませ

ん。しかし、失敗してからはやっぱり男はお金だけあれば、幸せになれるだろうと、お金をたくさん儲ける男性とすれば、幸せになれるだろうという基準を持っていたかも知れません。その次はそのお金もいらなくて、性格が優しく暖かくて、ただ自分だけ見てくれる基準で男を捜したら、きっと幸せになれるのではないかと思ったら、変態的で妻の貞操(ていそう)をいちいちむやみに疑って束縛しようとしたかも知れません。このように毎回毎回再婚するたびに彼女は真剣にさらに真剣に今回こそ、かならず幸せになる！すべてがうまく願って通りに行けるだろうと信じていた彼女だったでしょう。

しかしながら、今6日目の主人と一緒に同居(どうきょ)していましたが、相変わらず、人生に対する満足はありませんでした。今日名前すら知らないあるサマリヤ女の人生の姿を見ながら、我々の同じ姿は見えますか。つまり、人生の真の満足を得るため一生懸命に努力して来ていますが、なぜか解決されず、続けられている彼女のような人生の飢え乾きが我々にもあるではないでしょうか。人生のすべてが自分の願ひ通りに、計画通りにはならない自分の人生に対するの限界、手に負えないものであることを主の御前で我々も同じく認めるべきではありませんか。

2. 真に必要なこと: イエスは不幸だったサマリヤの女に生ける水を与えて下さいました。

愛する信仰の家族のみなさん！今日このサマリヤの女に一番必要されていることは何でしょうか。

飲む水ではありません。魂の渇きを解決してあげることです。のどが渇いている人には冷たい水を飲まして上げることで解決できるように、今この女に必要なのはまさに人生の渇きを解決する生ける水を飲まして上げることでしょう。

この女は井戸に行った時、イエスさまに出会いました。神様であるイエス様はすでにきおの女の過去をも、悩みもよくご存知でした。イエス様は人々をさけて真昼に水をくみに来た女に言われました。

14節です。“私が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命への水が湧き出ます。”

イエス様の言われたお言葉の中、とっても大切な言葉が出ます。

“決して渇くことがない永遠の命の水”ということです。

女はイエス様との出会いによって今まで恥だと思い、悩んで来た彼女のすべての過去の罪の問題が解決されました。

彼女の罪と恥と傷などをイエス様はすべて受け入れて下さり、そして、彼女のすべての罪を赦して下さいました。イエス様は彼女の過去を一切問わず、却って彼女に一番必要な生ける水を与えられたのです。

みなさん、ここで今日の御言葉を通して私たちは生ける水というのは何か分かります。

生ける水というのは主イエスキリストによる救いであり、イエスキリストを信じることにより神の子どもとされること、生まれ変わることを意味します。ここで、イエス様を信じ、神の子どもとされる、つまり、救いを受けることを“永遠の命への水”だとイエス様が表現して下さいましたことにはとても意味深いことです。

これを違う表現で説明しますと、人はだれでも心の奥底から渇きを感じ、真の満足を味わってない空しさともどかしさを抱えていると言う意味が含まれています。

今日の聖書の本文のちょうどこのサマリヤの女は5回も結婚して主人を変え、今は6回目の男性と住んでいるのにもかかわらず、真の人生の満足、心からの満足を味わえることができなかつたわけではありませんか。

なので、神様がイザヤ55章1-2節をこのように我々を呼んで下さっているのです。読んで見ましょうか。

“ああ。渇いている者はみな、水を求めて出て来い。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え。:2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならない物のために金を払い、腹を満たさない物のために労するのか。わたしに聞き従い、良い物を食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づこう。”

ここで、「渇いている者はみな」と神様がおっしゃったのは、すべて生きている人々はみんなの喉渇きを持っているように、真の満足を味わえることができず、魂の渇き、心の渇き、人生の渇きをみんなもっていることを指摘して下さいしている御言葉です。

愛する信仰の家族のみなさん！ここで我々がもう一度心にとめ、覚えるべきことがあります。

みなさんもよく御存知のように人生は一度しかなく、アンコールはありません。そういうわけで“一生”だと表すのです。大切なのは人生は一度しかありませんので、ためしにやってみるほど余裕がありません。つまり、このように生きて見て、あのように生きて見た後、“あ、このように生きるべきだったのだ。”というほどの余裕がありません。これを言い換えると、この世にはいろんな種類の宗教があるが、この宗教も信じて見て、あの宗教も信じて見て、全部経験して見た後、“ああ! この信仰が、あの真理が正しいのだ”と結論を出してその宗教を信じようとするほど人生の時間がそんなに待ててくれないということです。

なぜなら詩篇 90:10 に“私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。”そして詩篇 39:5 では“ご覧下さい。あなたは私の日を手幅ほどにされました。私の一生は、あなたの前では、ないのも同然です。まことに、人はみな、盛んな時でも、まったくむなししいものです。”と言われたからです。一言で、人生はあまりにも短すぎます。みなさんは旅人のような人生をどのように歩んでいるのでしょうか。

そのイエスキリストがこういわれています。

“私は道であり、真理であり、命なのです。(ヨハネ14:6)、そして、使徒の働き 4:12には“この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。”と聖書にははっきりと書かれています。そして、“この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。”(ヨハネ1:12)とただ主イエスキリストを信じる者に与えられる神の約束があります。

ところが、多くの方々がまだこの事実を知らないため、イエスキリストを信じようとしません。

却って、今も多くの人々はお金だけあれば、人生のすべての渇きを解消(かいしょう)できると考え込んでいます。

そのため、お金を儲けるためには手段(しゅだん)や方法を選ばないため、他の人をだましたり、他の人が死んでも、他の人生がどうなっても、関係なくただお金ばかり求めて生きているような人がどれほど多いのでしょうか。

ある人は名誉を、人の人気を、頭の知識を、健康を、この世の権力などを得られれば、人生の渇きが解消され、満たされ、真の人生の満足を得るになると思ひこんで一生懸命に努力しています。

しかし、この世でそのどんなものを手に取れたとしても、人生の内面深いところから湧き出る渇きを満たし、解決し、真の満足を得られなかったと聖書が証言して下さっています。

例え、知恵の代名詞として呼ばれたダビデの子であり、統一イスラエル国の王であったソロモンはあらゆる欲を全部手に入れましたが、それでは決して心に真の満足を得ず、さらなるむなしさを感じたと告白しました。

伝道者の書1:8では“すべてのことはものうい。人は語ることさえできない。目はみて飽きることもなく、耳は聞いて満ち足りることもない。”と言いました。

詳しくは伝道者の書2章3-11節を読んで見て下さい。

。“私は心の中で、私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけようと考えた。人の子が短い一生の間、天の下であることについて、何が良いかを見るまでは、愚かさ身を身につけていようと考えた。私は事業を拡張し、邸宅を建て、ぶどう畑を設け、庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。木の茂った森を潤すために池を造った。私は男女の奴隷を得た。私には家で生まれた奴隷があった。私には、私より先にエルサレムにいただれよりも多くの牛や羊があった。私はまた、銀や金、それに王たちや諸州の宝も集めた。私は男女の歌うたいをつくり、人の子らの快樂である多くのそばめを手に入れた。私は、私より先にエルサレムにいただれよりも偉大な者となった。しかも、私の知恵は私から離れなかった。私は、私の目の欲するものは何でも拒まず、心のおもむくままに、あらゆる楽しみをした。実に私の心はどんな労苦をも喜んだ。これが、私のすべての労苦による私の受ける分であった。しかし、私が手がけたあらゆる事業と、そのために私が骨折った労苦とを振り返ってみると、なんと、すべてがむなしなことよ。風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。”と告白しました。

一言で彼はこうまとめました。伝道者の書1:14、“私は、日の下で行なわれたすべてのわざを見たが、なんと、すべてがむなしなことよ。風を追うようなものだ。”

ソロモン王でさえもこの世のどんな快樂も、人からも、ものからも真の満足を得ることなく、却ってそれを取ろうとし、味わえようとするほどしばらくは満足したと思つたが、人生はさらに空しく、さらに心から湧き出る魂の渇きを解決することができなかつたと告白したのです。愛するみなさん！これがまさに我々の人生ではありませんか。

あらゆる人生の主であられるイエス様に会ってからこの女はどのように変わりましたか。

あまりにも驚くばかりの出会いだったため彼女はその場にいられず、自分の水がめを置いて町へ行き、“来て、見て下さい。私、キリストに会いましたよ。”と叫びました。

今まで自ら町の人々をさけて暮らしたあの女が今は待ちの人々に位って、自分の罪がゆるされ、変えられた自分を見せながらイエスキリストを証しているのではないのでしょうか。

もはやこの女は自分を押さえつけていた魂の渇きが解決され、人々の前でまともに出ることができるようになりました。そして、自分の存在が主にあってもう恥ずかしくない尊い存在であることも改めて分かるようになりました。そして、自分の存在も主にあっても決して恥ずかしくない尊い存在であることも改めて分かるようになります。自分自身のように惨めな人さえもあらわされて下さったイエス様の恵みと愛を証しせざるを得なくなったのです。イエスキリストに出会うことによって自分の渇きが完全に解決された女になりました。

例え)いつかニュヨックタイムズを見たら、20世紀の中世界の中で影響力のある人物100人の中オプラウインプリ(Oprah Winfrey)という黒人の女性が選ばれました。アメリカABC放送の最初の黒人のアンカーであり、アメリカでトークショのクィーンだと言われるほどこの女性はアメリカでもっとも影響力のある人でした。彼女の番組は善アメリカの1400万人ぐらいの市長を集めているし、彼女が番組に出てきてある一冊の本を紹介すると、すぐにアメリカでベストセーラになるほどです。

しかし、彼女の過去は暗闇だらけそのものでした。実は彼女は18才の未婚の母に生まれましたが、見捨てられ、オプラさんは幼いごろから祖母(そば)によって育てられました。オプラさんは小さい頃から手込め(てごめ)にされ、一度もほめられたこともなく、毎日棒で打たれ、家から追い出されるといつも馬屋に行つてしゃがんでこのように泣きながらよく祈つたそうです。

“神様！私を白人に変えてください。白人の子たちはあまり激しく棒でたたかれてないのに、どうして黒人はこんなにたたかれないといけないのですか。”神様を恨みながら叫び祈りました。

オプラさんの14才の時は自分自身も私生児(しせいじ)を生み、その赤ちゃんは生まれたばかりの時すぐ死んでしまいました。

20代まで彼女は男と麻薬などに越智い手墮落した人生そのものでした。

愛する信仰の家族のみなさん！こんなに惨めな生活だった彼女がどうやってアメリカで一番影響力のある女性の一人の人生に変えられたと思いますか。それは最後まで握っていた彼女の信仰のためでした。

オプラさんは暗闇の人生を過ごしているうちにだれにもこの世で頼れる存在がいなかったのが教会に通い始め、そこでイエスキリストと出会いました。その時から彼女の人生は少しづつ逆転されていたようです。相変わらず、まわりの人々は自分に励ましてくれるより、むしろあざ笑いをしたり、あざけるのを聞いたたびに彼女は熱心に聖書を読みながら神様から慰めを受け、だれにも言えない話を祈りをもって神様にこう叫びながら祈つたそうです。

“そうです。神様！僕は周りからあざけられている確かに悲しい人生そのものです。しかし、惨めな僕の人生だった私にあなたは尋ねて来られました。だから、今も、これからは僕はもう大丈夫です。僕はもうひとりぼっちじゃないから。あなたは前も、今も、これからは偉大な私の神様です。あなたはかならず私のこの人生から作り直して下さることを信じます。”

彼女がつらい時、神様によく祈つた時を振り替えて見ながら、自分の自叙伝(じじょでん)の本にこう述べています。

“今までも私は祈る時にいつも偉大な我が神様に御前でひざまずいて祈っています。そうすると、祈りがもっと早く天に届くような気がするからでした。私はあの辛かった時も、今も毎日主に祈っています。我が人生の中イエスキリストに出会ってから今に至るまで一度も祈りをさぼったことはありません。その祈りの内容はいつも同じです。主よ。こんな弱気私の人生であつてもあなたの愛の

道具として用いて下さいます様に、あなたの愛によって他の人々をも幸せにしてあげる私となるように助けて下さい。”
そして、今日彼女は恥ずかしかった自分の過去を堂堂と分かち合いながら、苦しみと悩みに抱えている多くの人々を助け、励まし、
祈ってあげる人生として豊かに用いられています。

そうです。愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！

今もイエスキリストは我々にこう語って下さっています。

“すべて疲れた人、重荷を負っている人は、私のところに来なさい。私があるあなた方を休ませてあげます。”(マタイ11:28)

過去どんな恥ずかしかった人生であれ、どんなにひどい罪人であっても我らの主イエスキリストと会えない人生は決してありません。どんな悩みでも、飢え乾きでもイエス様に出会えばすべて解決され、満たされ、人生の真の満足を得ることができます。永遠に渇くことがない生ける水であられるイエスキリスト御自身により救い、癒し、真の回復が与えられるからです。

愛する信仰の家族のみなさん！もしもみなさんにお金、名誉、知識、快樂などをみなさんが願う通りに与えられたら、心に真の満足得られると思いますか。決して満足できません。“馬に乗ったら、馬子(まご)に手綱(たづな)をとらせたい”ということわざがあります。つまり、心の願い事が与えられているとしても、しばらくは満足できるようになりますが、まもなくさらなる人の欲は湧き出て限りなく、切りがないと言う意味です。イエスキリストはそんな私たちをよく御存知だったので、我々が心に願うものすべてを与えて下さることによって我々の渇きを解決して下さるのではなく、井戸の水ではなく、我々の内側の人を新しい人、つまり、イエスキリストを信じる信仰によってこれからは神の子どもとして生けるような永遠の生ける水を与え、真の人生の渇きに満ちし、真の満足を得させて下さいました。

みなさん、イエスキリストを受け入れた人々にはすべての罪が赦されます。疲れ果てて自分の力では起き上がれない人生に、心に真の安らぎを与えて下さいます。イエスキリストを受け入れた人々にはこれからの人生の先が見えなくてさまよってわびしく歩んでいる人生の道にこれから主が共に同行して下さり、正しく導いて下さいます。何よりもこの世のどんなものからでも満たされない空しい人生をイエスキリスト御自身がかならず作り直し、変えて下さってこらからの一度の人生を何のため生きるべきなのか真の価値ある生きる目的を示し、新たな使命で満たして下さいます。

今、私たちの心の扉を開いてイエスキリストを呼び求め、受け入れ、神の子ともとされた祝福がみなさんの上に注がれますように。私たちの魂の飢え渇きを解決して下さり、私たちの人生の責任を負って下さるイエスキリストを受け入れて祝福された新しい生活を向かえる一人一人、すべてクリスチャンプレイズチャーチの神の家族となりますように、心から祈り、主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！